

問題61

次の1・2の会話文の()にあてはまる最も適切な英語を、それぞれ下のア～エの中から選び、その記号を書きなさい。

- 1 A: () Mike play tennis on Sunday?
B: No. He plays tennis on Saturday.
(注) Mike マイク (人名)

ア Is イ Are ウ Do エ Does

主な解答例		割合(%)
○	エ	71.2
×	ア	17.3
×	イ	3.0
×	ウ	7.1
×	上記以外の解答	0.5
—	無解答	0.9

<経年比較>

年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
通過率(%)	21.3	30.4	38.3	37.2	71.2
無解答率(%)	0.8	1.1	1.1	0.8	0.9

<p>【平成 21 年度】</p> <p>A: What () Akio and Ken do on Sunday? B: They play basketball.</p> <p>ア is イ are ウ do エ does</p>	<p>【平成 22 年度】</p> <p>A: What () Masao and Takashi do on Saturday? B: They play soccer.</p> <p>ア do イ does ウ is エ are</p>
<p>【平成 23 年度】</p> <p>A: What () Takuya and Masao play on Sunday? B: They play soccer.</p> <p>ア do イ does ウ is エ are</p>	<p>【平成 24 年度】</p> <p>A: () Ken and Mike play tennis every day? B: No. They play tennis on Sunday.</p> <p>ア Is イ Are ウ Do エ Does</p>

これまでの報告書で示した指導改善のポイント

- 既習の文法事項と新しく学んだ文法事項の共通した特徴を、「まとめ」などとして比較対照しながら整理しましょう。例えば、「動詞のまとめ」として be 動詞と一般動詞について、動詞の用法や動詞を含む肯定文、疑問文、否定文の構造の特徴を比較対照しながら理解させましょう。
- 文法事項について、3年間の中で計画的に繰り返し指導を行きましょう。例えば、「一般動詞の現在形」の指導を、現在進行形、過去形、過去進行形のそれぞれの指導時や指導の前後に位置付けましょう。
- 主語は赤丸で囲む、動詞には青線を引くなど、主語と動詞に着目させて、文構造を視覚的に理解させましょう。
- be 動詞を含む疑問文と一般動詞を含む疑問文の構造を比較させながら、その違いを視覚的に理解させましょう。

<事例紹介>福山市立常金中学校

ポイント

- カードを活用し視覚的に文構造を理解させ、ドリル学習を行う。
- 「話すこと」を「書くこと」につなげる。

- ◎ be 動詞と一般動詞を視覚的に示すことで、疑問文の作り方の違いに気付かせる。
- ◎ 1 人称と 2 人称, 3 人称単数の使い分けを、カードを活用し、口頭練習させる。



You are Becky.
※ be 動詞(=イコールの関係)

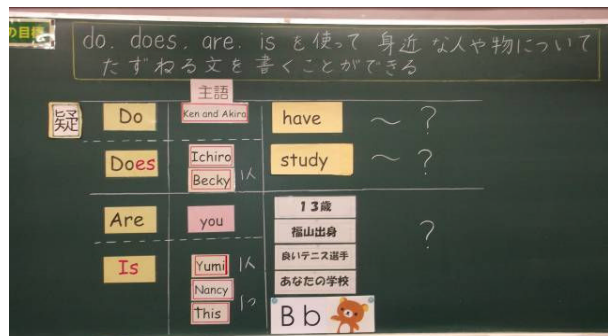
You play soccer.
※ 一般動詞(動作・状態を表す)

カードや絵を使用すると文構造の違いを理解させやすいです。be 動詞と一般動詞の違いを理解させたうえで、毎回例文を変えながら、一斉やペアで口頭練習をし、ドリル学習を行うと効果的です。



- ◎ do, does, are, is を使って身近な人や物についてたずねる文を書く力を付ける。

be 動詞, 一般動詞を学習した後は, 比較させながらそれぞれの文法事項をカードや絵を活用して視覚的にまとめましょう。また, 重要構文をノートに書かせることで, 家庭学習や復習の手掛かりとさせましょう。板書は, 授業で何を学んだのかが分かるように工夫しましょう。

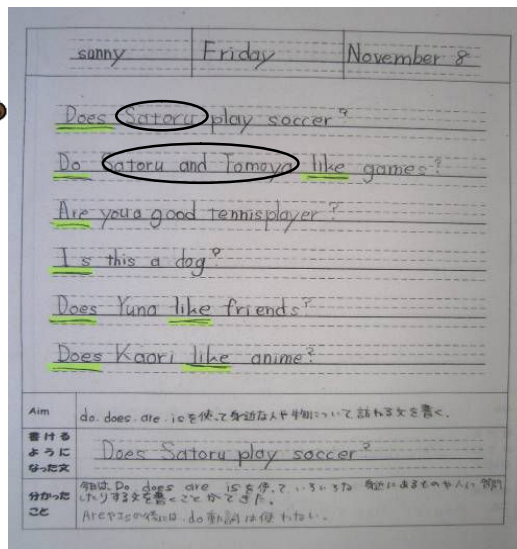


- ◎ ペアで口頭練習させた後、言えたことをノートに書かせる活動を繰り返し行う。その中で、do と does の使い方、一般動詞と be 動詞の疑問文を区別して正しく書く力を付ける。

いきなり書かせるのではなく、まずはしっかり口頭で表現させることが大切です。話す力は、書く力につながります。



自己評価表と自己表現ノートをセットにしたものを生徒に持たせ、授業のまとめで本時に学習したことを書かせたり、一斉やペアでの口頭練習後、言ったことを書かせたりすることで、生徒の定着状況を確認し、指導に生かしています。また、主語と動詞の区別をするために、動詞に線を引かせています。



主語を単数形、複数形で、動詞も be 動詞と一般動詞をまとめて表現させています。